

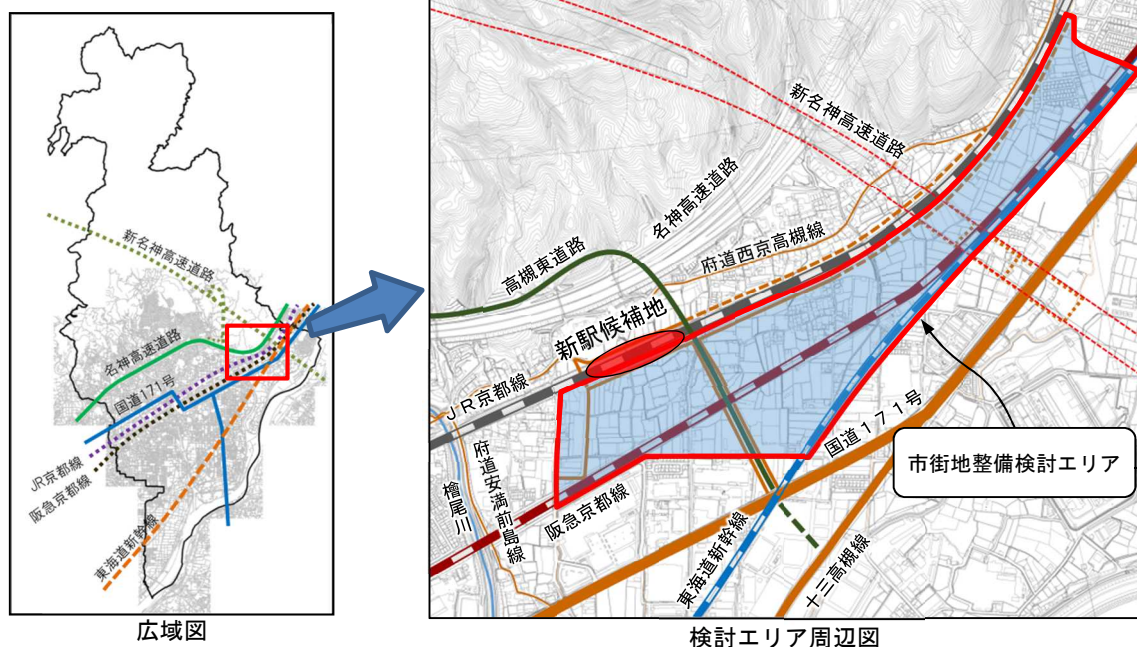
案件 2 新駅設置と新たな市街地形成の検討 について

令和 3 年 1 2 月 7 日
都市創造部

1 取組概要

1-1 概要

檜尾川以東の鉄道沿線において、新名神高速道路の開通や十三高槻線等の事業化など、周辺環境の変化を踏まえ、鉄道新駅設置を含めた新たな市街地形成について、鉄道事業者とともに検討を行う。



1-2 主な経過

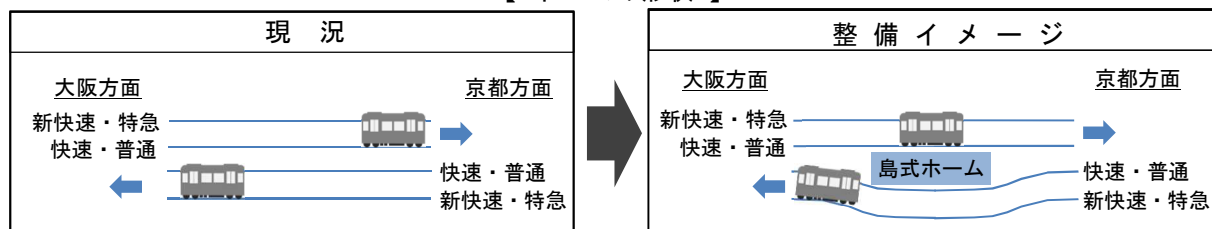
年月	主な経過
平成29年度	J R西日本と市が、駅周辺のまちづくりについて意見交換を実施し、檜尾川以東で新駅設置と新たな市街地形成の可能性について検討することに合意
平成30年度	J R西日本と市が検討会議を開催（平成30年度に3回開催）
平成31年3月	都市環境委員会協議会で報告
令和元年 9月	市が上場企業・法人等に対して、土地利用に関するアンケートを実施
11月	J R西日本と市が検討会議を開催（令和元年度に2回開催）
12月	市民都市委員会協議会で報告
令和2年 1月	市が農地所有者への土地利用意向調査及び周辺住民へのアンケートを実施
10月	大阪府が都市計画区域マスタープランに当該地域を「保留区域」に設定
令和3年 2月	J R西日本と市が検討会議を開催（令和2年度に1回開催）
3月	高槻市都市計画マスタープランに当該地域を「萩之庄・梶原新都市拠点」に位置付け

2 検討状況

2—1 新駅設置等の検討

J R 西日本は、ホーム形状をホームの両側から乗り降りできる島式ホームに決定され、地上にある改札からホームへ上る形式で、概算事業費の算出、駅舎構造などの技術的検討を行っている。

【 ホームの形状 】



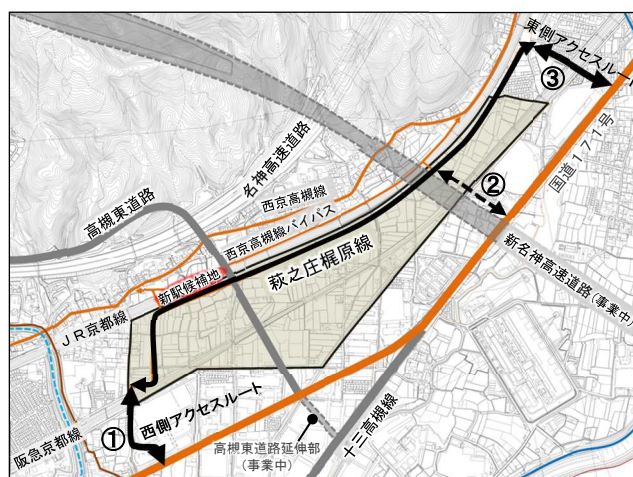
2—2 アクセスルートの検討

国道171号から検討エリアへのアクセスについて、検討エリアの形状や鉄道との交差構造等の既存道路の状況を踏まえ、3ルートで検討を行った。

①ルート	②ルート	③ルート
・既存の国道交差点を活用できる。 ・検討エリアまでは、現道の改良が必要だが、阪急との交差部は、既存アンダーが活用できる。 ・萩之庄梶原線との接続で、国道から連続した道路ネットワークが形成できる。	・検討エリアまでは、新名神高速道路の側道を活用できるが、鉄道との交差部は、阪急アンダーの新設及び現新幹線構造物への影響が非常に大きく、事業化が困難。	・検討エリアまでは、現道の改良が必要だが、鉄道との交差部は、阪急、新幹線ともに既存アンダーが活用できる。 ・萩之庄梶原線との接続で、国道からの連続した道路ネットワークが形成できる。

②ルートは阪急アンダーの新設及び現新幹線構造物への影響が非常に大きく、事業化が困難であり、①及び③ルートは、既存の鉄道の立体交差部が活用でき、かつ、現在、整備を行っている萩之庄梶原線と接続することで、国道との連続した道路ネットワークが形成でき、まちづくり効果が高く、経済性に優れること等から最適ルートとして選定した。

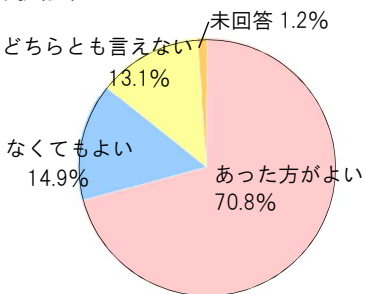
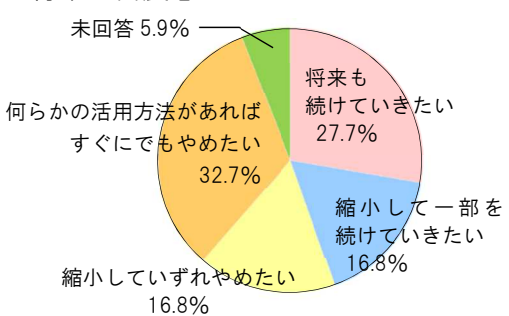
今後は、検討エリア内の萩之庄梶原線や国道との接続形状等の検討を深める。



検討エリア周辺の道路ネットワーク図

3 まちづくり活動状況

3—1 農地所有者及び周辺住民へのアンケート調査等

目的	農地所有者・地域住民の意向把握および新駅設置等における地域の課題整理	
期間	令和元年12月20日～令和2年1月22日	
調査数等	農地所有者 140通 → 回収数 103通（回収率74%） 地域住民 305通 → 回収数 168通（回収率55%）	
主な結果	・新駅設置について 	・将来の営農意向について 

3—2 地域住民との意見交換、勉強会の開催状況

年度	対象組織	開催回数
平成30年度	関係自治会長、農業関係団体 等	5回
令和元年度	梶原自治会、梶原5・6丁目自治会 萩之庄自治会、農業関係団体 等	8回
令和2年度	梶原まちづくり協議会(新駅分科会) 梶原5・6丁目自治会 等	6回
令和3年度	梶原まちづくり協議会(新駅分科会) 梶原5・6丁目自治会 等	5回

※令和3年11月末現在



梶原まちづくり協議会(新駅分科会)



梶原5・6丁目自治会

4 今後の進め方

J R西日本は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響等で経営に大きな影響を受けているが、当該地域における新駅検討事業については、引き続き、本市とともに検討を進めていくとされている。本市としても、将来の交流人口や定住人口の増加、経済活力の増進につながるまちづくりに向け、J R西日本と適切な役割分担のもと、検討を深める。

検討内容	鉄道事業者	高槻市
	・駅舎の設備及び構造検討	・地元まちづくり活動支援 ・土地利用計画の検討 ・道路ネットワークの検討